

ば、龍燈でなく、妖怪であろうか。

〔長沼名義考〕より〕

土橋入の山男

《長沼》

土橋入の山男というのは、昔、この山で、山男に逢った人が幾人もあつたといわれる。その容貌、人界の人にあらざ、草葉の衣を着て、火に掛けたものは喰わず、物いわずという。

この男は幽界の人か、山住の仙人か、木霊の類かははっきりしない。

〔長沼名義考〕より〕

寿黛髻仙人

《長沼》

長沼の南の田圃の中に円形の丘がある。ここは寿黛髻山といわれて、昔、寿黛髻（地代坊）仙人が、昼寝した所といわれている。

この仙人は山居山にも住み、天鳥山の榎の大木にも住んでいたという。榎の大木の梢より思う所に飛んで行き、またこの木に帰って来ると伝えられる。

のちに、この仙人、高鳥山（高土山）に隠れたといわれるの

寿黛髻山

